

<12月> 「柚子湯はじまりまーす!」

○ねらい 身近な冬の自然に触れたり、年末年始の暮らしを体験したりしながら気付いたり、これまでの経験とつなげて関心を深めたりする。

○内容 冬の訪れに関心を寄せ、木々の様子や生き物の冬ごもりなど自然物や自然現象の変化に気付く。

環境構成 保育者の援助

① 幼児が園内の自然に関わり、興味につながるように、特徴や変化を把握し保育に取り入れる。

② 柚子との関わりが深まるように図鑑を用意する。

③ 季節により自然や生活・文化に変化があることに気付くことができるように冬至の意味や習慣を分かりやすく知らせる。

④ 柚子と生活経験を関連付けて遊ぶきっかけとなるように、幼児と一緒にのれんを用意する。

ナツキが、園庭の柚子の木になった小さな実を見付け「柚子にミカンみたいな実がなってる。①柚子はやっぱりミカン系だったんだね」と言う。虫探しが好きなナツキは1学期にこの木が柚子であることやアゲハ蝶が柑橘類に卵を産み幼虫が育つことを知っていた。「柚子の味は知ってるけどなあ」と言いながら、実を見るのは初めてであることを話し、じっと見つめて実に触れた。保育者が①「この柚子の木は今年に初めて実ったんだよ」と伝えると目を丸くして驚いた。ナツキは②図鑑で柚子が10年位掛かって実ることもあると知り②「奇跡の実や」と大声で言う。保育者も一緒に図鑑を見て「本当だね。今年は特別な年だね」と言うのと走って園庭に戻り実を見た。その後、友達に知らせ実を採るとナツキはもぎたてのヘタの部分に鼻をくっつけて香りを確かめたり、友達と「皮がツルツルだ」「ゴロゴロしてる」など言い合ったりした。

この日はクラスで大掃除を計画していた。保育者から③本日が冬至であること、また冬至の柚子湯についての話を聞いたナツキは興味をもち、「園でお風呂に入れたらいいのにな」「でも水のお風呂は風邪ひくぞ」などと話す。保育者が「お湯を沸かすことはできるよ」と提案すると「それならお風呂できそう」と喜ぶ。大掃除で雑巾を洗う際、ナツキは「ひゃあ冷たい!でも柚子湯があるから大丈夫」と言った。その後、保育者とナツキが④画用紙でつくったのれんを保育室の入り口に掛けると、ミナが③銭湯での経験を話し、ハンカチを頭に乘せて「きつといい湯やで」と銭湯に来た客になりきる。ナツキもそれを見て客になり「僕も入れてもらおう」と客のような口ぶりで話した。柚子湯を入れたタライに手を浸けると「良い匂い」「すべすべになったよ」と言って香りを思いきり吸い込み、ミナを見て笑い合った。保育者から冬至の由来を聞いたナツキは④「これで1年生になる来年は風邪をひかないよ」と言って健康を祈った。



内面の読み取り

① アゲハ蝶の幼虫を柚子の木で見つけた経験が親しみになり、新たな興味につながった。

② 柚子の実りまで数年を要するのを知ったことが、不思議さや特別感につながり、調べたり、遊びに活用したりしようとする原動力になった。

③ のれんをきっかけに銭湯ごっこが始まることから、生活経験を取り入れる力や相手のイメージや思いを解釈し、受け入れる力、ユーモア性の育ちが見られる。

④ 柚子湯で香り、温かさ、湯の感触、友達の賑やかさなど年末年始の雰囲気を感じ、就学を迎える新年への期待感につながった。

< 考察 >

ナツキは柚子の実を見て「やっぱりミカン系だ」と確信した。1学期に蝶を探すための必要感が動機となってアゲハ蝶が柑橘系の木に来ることを図鑑や虫探して知ったナツキ。そこで得た知識は、2学期の終わりに実を付けた柚子の木を見つけたことで確信となったと思う。親しみのある柚子の実を使って柚子湯をしたことは就学の年を迎える嬉しさ、期待感につながった。ナツキの姿から幼児は一つ一つの心を動かした実体験をしっかりと覚えており、それを新たな体験とつなげながら知識を蓄えるということを感じた。

< 幼児の学び >

- ・ナツキの柚子の木への愛着の高まりや自然の不思議さへの気付き、体験からの知識の深まり
- ・風習や文化への興味と新年、就学への期待感の高まり

< 小学校の先生の気付き >



一つの植物に興味を持って調べ、季節の変化や行事・風習・文化の意味を感じられているね。小学校でも伝統文化を知識で学ぶけど、幼児期の体験を通した学びが結びつくんだね。

のれんという環境一つで銭湯に行った経験が遊びにも出てくるんだね。2年生の生活科では、おもちゃランドという学習活動もあるから、こういう経験は生きてくるね。

